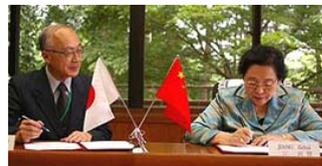


報 告

- ◎ [中国林業訪日団が来所し「共同研究に関する覚書（MOU）」を締結](#)
- ◎ [サイエンスキャンプ2005 開催される](#)
- ◎ [「子ども樹木博士」開催される](#)
- ◎ [開催報告「国際紙パルプ会議」](#)

◎ 中国林業訪日団が来所し「共同研究に関する覚書（MOU）」を締結

去る8月2日、江沢慧（Jiang Zehui）中国林業科学研究院長を団長とする6名の「中国林業訪日団」が、視察及び「共同研究に関する覚書（MOU）」締結のため来所しました。大熊理事長を表敬し、理事等を交えた懇談の後、当所の海外研究及び木材利用研究についての概要紹介が、沢田・藤原両研究管理官から行われました。さらに、当所（大熊理事長）と中国林業科学研究院（江院長）との間で「覚書（MOU）」が調印されました。今後、森林研究全般についての両研究所間での協力が一層進むものと期待されます。本所来訪の後、ご一行は北海道の林業等を視察し、志水北海道支所長が同行しました。



MOUに調印する大熊理事長（左）と江院長（右）

◎ サイエンスキャンプ2005 開催される

8月17日（水）から19日（金）までの3日間、森林総合研究所でサイエンスキャンプ2005が行われました。サイエンスキャンプとは、（財）日本科学技術振興財団が主催する科学技術体験合宿プログラムで、高校生または高等専門学校生を対象に、実習や実験をとおして、科学技術や自然に対する興味や参加者同士の交流を深めることを目的としています。森林総合研究所での開催は、今回で8回目になります。

今年のサイエンスキャンプには、北は岩手県から南は長崎県より8名の高校生が参加し、A. 「紙を白くする技術“漂白”を体験しよう」、B. 「ミクロな森の生き物を調べよう」の2コースに分かれて、研究者と一緒に実験や観察を行いました。



オゾンでパルプを漂白（Aコース）



木材腐朽菌のサンプル作成（Bコース）



実験結果などコース別に無事発表。閉講式で修了証が授与されました。

◎ 「子ども樹木博士」開催される

8月20日（土）、所内樹木園を会場に「子ども樹木博士」が開催されました。これは、子供たちに森林、環境、自然科学などについて興味を持ってもらうことを目的とし、樹木の名前をどれだけ正しく答えられたかに応じて段級を認定するもので、今年で6回目の開催になります。今回は、午前・午後の2回行い、付き添いの方を含め計86名の参加がありました。まず、講師と一緒に樹木園を歩きながら、出題される30種の樹木の葉や花・果実などの特徴を聞いたり観察した後、樹木の名前当てに挑戦し、正解数に応じた子ども樹木博士認定証が授与されました。



講師から樹木の特徴についての解説を聞きながら観察しました。



認定試験の様子。皆さん、真剣です。

◎ 開催報告「国際紙パルプ会議」

8月16～18日の3日間、マレーシア・クアラルンプールにおいて国際紙パルプ会議が、マレーシア森林研究所（FRIM）の主催、森林総研、マレーシア紙パルプ協会、オーストラリア・ニュージーランド紙パルプ協会の共催で行なわれました。会議の冒頭、マレーシアの天然資源・環境大臣 Dato Sri Hj. Adenen Hj. Satem、ならびに森林研究所（FRIM）所長 Dato' Dr. Abdul Razak Mohd Aliによる開会の辞があり、その中で森林総研の共催に対する感謝の言葉がありました。会場となったヒルトンホテルには、開催国マレーシアを含めて11カ国から150名を超える参加者が集まり、口頭30件、ポスター20件の研究発表を中心に熱心な討論、意見交換が繰り広げられました。今回は、紙パルプ製造に関わる人工林木材や再利用繊維、非木材繊維の利用や環境調和型の製造方法など、環境対策に取り組む紙パルプ産業の方向性が全体に強く感じられました。森林総研からは3名が参加し、4件の発表を行いました。また、3日目はクアラルンプールから2時間ほどのパハン州メンタカブにある古紙から新聞紙を製造する工場を訪ね、マレーシアにおける最新の抄紙技術と排水施設を見学しました。



会場の様子